

話すこと 指導のポイント

(その1)

～ スピーチ活動の指導について① ～

スピーチの指導はしなければいけませんか？



もちろん、しなければいけません。学習指導要領に示される「話す」言語活動の指導事項に、平成20年度の改訂で新たに与えられたテーマについて簡単なスピーチをすることが加えられています。

「話すこと」 言語活動指導事項

(オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

学校や日常生活などで体験したことや自分の夢など、生徒の学習段階や興味・関心にあったもの

また、スピーチ活動は次のような特長があります。

- ・学習した語彙や文構造を“活用”して、自己表現させることができる。
- ・思考力、表現力を育成できる。
- ・「英語を使う楽しさ」を味わわせることができる。
- ・達成目標がわかりやすく、学習意欲が高まりやすい。
- ・「話す」「聞く」「書く」「読む」力を総合的に育成できる。

ぜひ、スピーチ活動を指導計画の中に位置付けてください。



NEW CROWN ENGLISH SERIES にも、次表の通り、スピーチ活動が設定されています。スピーチ活動は、**習得したものを表現する活用型の言語活動**ですので、ぜひ充実させましょう。

NEW CROWN ENGLISH SERIES に位置付けられている「スピーチ活動」一覧

ENGLISH SERIES 1	Lesson 3	Show and Tell 自分の好きな物を紹介する。
	Lesson 3 USE Mini-project	自己紹介をする。
	Lesson 7	友達や自分のできることを紹介する。
	Lesson 7 USE Mini-project	学校行事を説明する。
ENGLISH SERIES 2	Lesson 5 USE Mini-project	「私の夢」を紹介する。
	Lesson 7 USE	グラフや表を利用して説明する。
	Lesson 8 USE Mini-project	(メモをもとに) 自分が行きたい国について説明する。
ENGLISH SERIES 3	Lesson 5 USE Mini-project	(メモをもとに) 日本について説明する。
	Lesson 6 USE Mini-project	(メモをもとに) 尊敬する人物を紹介する。 (原稿を読まずに) 尊敬する人物を紹介する。

指導する際は、

CAN-DO リストの中に盛り込む

それぞれの学年末での目指す姿を設定する。

ことが大切です。

生徒の実態に応じて、各学年末に、スピーチする力をどこまで高めるのかを明確にし、校内（教員及び生徒）で共有していくことが大切です。



例を紹介しますので、参考にしてください。

(「CAN-DO リスト」の話すことに関する学習到達目標例)

	第1学年	第2学年	第3学年
話すこと	<p>【スピーチ】</p> <p>○自分や他を紹介する 3 0語程度のスピーチを行うことができる。 (原稿あり)</p>	<p>【スピーチ】</p> <p>○メモなどをもとに、事実などについて、要点をおさえ簡潔に説明することができる。 (メモあり)</p>	<p>【スピーチ】</p> <p>○得た情報を、即興で要点をはずさず伝えることができる。 (原稿なし)</p>

※ 小学校外国語活動でも「自己紹介」や「自分の夢」を話すスピーチ活動は一般的に行われています。小学校では、話す内容を事前に考え、描いた絵等を用いて、原稿なしで発表するケースが多いです。小学校での経験も生かしたいところです。